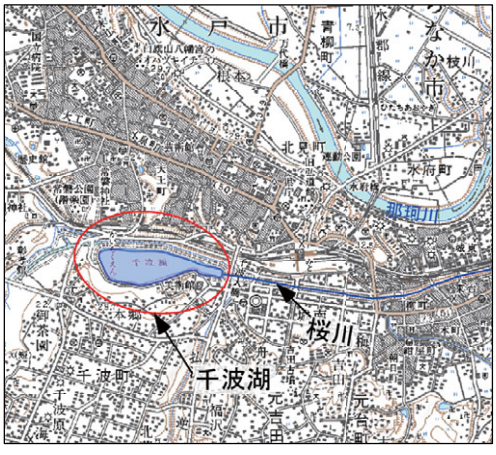
④ 支川（桜川）・千波湖

桜川（支川）は，朝房山(笠間市)に源を発し，千波湖を経て那珂川に注ぐ，延長 12.9km の河川である。千波湖より上流の桜川沿いは，東茨城台地を刻んだ水辺環境が多く見られ，河畔には樹林や湿地が広がり，自然が豊かである。「膳棚(ぜんだな)*」に代表される景観に恵まれた環境が残され，千波湖より上流は，釣りや散策等の場として多くの人に親しまれている。

千波湖より下流の桜川は水戸市市街地の都市河川であり，高水敷には散策路が整備され，水際はアヤメ等の水生植物を配した人工的な植生となっている。さらに下流の柳町付近では，水戸藩時代に整備された用水施設である備前堀へとつながっており，水戸市の歴史観光資源を結ぶ重要な動線の役割を果たしている。



桜川の上流にある膳棚（水戸市）

桜川の多自然型護岸（水戸市　４月）

水戸市街地の桜川（水戸市　４月）

図 4-64　桜川の景観

＊膳棚
河和田八景のひとつ。水戸藩二代藩主徳川光圀が愛した風情に富んだ地。古誌にも「往古は川幅広く，かつ深く，潜龍も棲む深淵なりし。かつ奇岩水底に階段をなし，その形，棚の如し」とある。

水戸市市街地を流れる桜川では河川整備が進み，高水敷の植生は，シバ群落，チガヤ群落，ギシギシ群落の単調な植生がほとんどで，ヨシ群落，セイタカアワダチソウ群落がところどころに見られる。

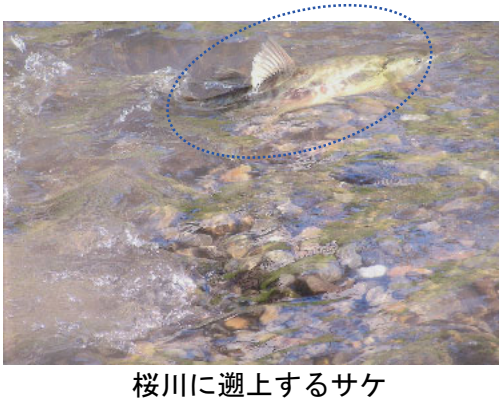
桜川では 25 種以上の魚類が生息しているが，在来タナゴ類やホトケドジョウ，メダカなどは減少し，国内外来種のオイカワ，カワムツ，タモロコや，国外外来種のオオクチバス，ブルーギルが増加している。

また，桜川の好文橋（こうぶんばし）付近で平成 17 年 11 月にサケが遡上する姿が確認され，話題になった。そこでは，サケが尾びれを使って穴を掘る産卵行動が確認され，川底では卵も見られた。桜川の水質がよくなったため，サケの遡上や産卵が見られたと，周辺の住民にもうれしいニュースとなった。

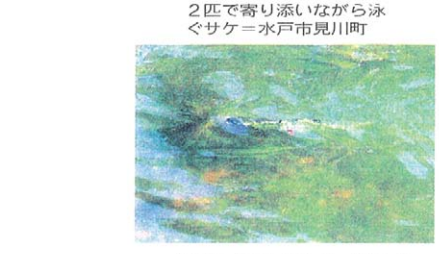
桜川の河川敷植生（水戸市　４月）

ブルーギル（サンフィッシュ科）
（写真：㈱日水コン）

オオクチバス（サンフィッシュ科）
（写真：㈱日水コン）



桜川に遡上するサケ
（写真：川島 省二氏）



２匹で寄り添いながら泳ぐサケ＝水戸市見川町

水戸

桜川にサケ遡上

那珂川から迷い込む？

水戸市を流れる桜川で九日までに、サケの遡上が確認された。関係者らは、桜川が那珂川の支流にあたることから、那珂川を遡上したサケが迷い込んだ可能性が高いとみている。

雄が雌にぴったりと寄り添いながら、雌が背びれをバタつかせる産卵行動を繰り返す姿が、同市の偕楽園公園内など数カ所の浅瀬で確認された。那珂川からバ°以上上流の見川クリーンセンター近くでも、産卵準備しているとみられる五匹前後のサケがここ数日間、ほぼ同じ場所で観察されている。

那珂川では毎年、遡上が確認され、稚魚の放流も毎年行っている。県水産振興課は「那珂川のサケが迷い込んだ可能性が高い」としている。

水戸市環境課は、清流を好むとされるサケの遡上が市内数カ所で確認されたことから、「桜川の水質が良くなってきたのかもしれない」と関心を寄せている。

サケ遡上の記事
（平成 17 年 11 月 10 日　茨城新聞）

図 4-65　桜川の生物

底生動物では，サカマキガイ，エラミミズ，ミズムシ，カゲロウ類，カワゲラ類などの水生昆虫類が見られるが，なかでもユスリカ類が多い。

また，ダイサギやアオサギなどのサギ類，カルガモ，ヒドリガモ，ハクセキレイなどの水辺の鳥類が見られる。

千波湖では，コイ，モツゴ，ギンブナは多いものの，かつて「センバハゼ」といわれたジュズカケハゼは全く見られなくなり，トウヨシノボリが増えてきた。また，国内外来種のオイカワやタモロコ，国外外来種のオオクチバスやブルーギルも増加している。また，千波湖はゲンゴロウブナ釣りが盛んである。小型の魚ではタイリクバラタナゴ（国外外来種），モツゴ等が生息している。水生昆虫では，ミズスマシ，マツモムシ，アジアイトトンボ，モノサシトンボ，シオカラトンボなどが見られる。

千波湖は，カモ類の飛来地として多くの水鳥が四季を通じて見られる。カイツブリとカルガモは年間を通して見られ，ミコアイサ，コガモ，マガモ，ヒドリガモなどは冬に見られる。

トウヨシノボリ（ハゼ科）
（写真：稲葉 修氏）

モツゴ（コイ科）
（写真：なかがわ水遊園）

カイツブリ（カイツブリ科）
（写真：㈱日水コン）

水鳥が集まる冬の千波湖（水戸市　２月）

ヒドリガモ（カモ科）
（写真：㈱日水コン）

図 4-66　千波湖の生物